

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：32639

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01099

研究課題名(和文)大正期から昭和期における「皇室映画」の研究活用に向けた基礎調査

研究課題名(英文)A Basic Research for the Study and Utilization of "Imperial Household Movies" from the Taisho to the Showa Periods

研究代表者

紙屋 牧子(KAMIYA, Makiko)

玉川大学・芸術学部・非常勤講師

研究者番号：20571087

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、国内外に残存する「皇室映画」の所蔵調査を軸としつつ、それらの活用に向けた基礎研究をおこなうことを目的とし、新型コロナウイルスの感染症拡大に伴う計画の中止や延期を余儀なくされつつも、(延長期間も含めて)四年間の活動の中で、国内のアーカイブのほか、ヨーロッパの幾つかのフィルムアーカイブでの調査を実施し、今後の研究の発展に貢献し得る知見を得た。本研究の調査研究活動における成果をふまえ発展させたものとして構想した研究計画が2021年度より基盤研究(C)として採択され、本研究の成果と連続性を持ちつつ、映画検閲の問題など新たな視点も取り入れ遂行中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、映画草創期における「皇室映画」に関する今後の研究の発展に資する極めて有意義な成果を得られた。現存するフィルムおよび関連資料に即した皇室の近代化(現代化)に映像メディアが果たした役割や、映画を中心とする視覚メディアにおける天皇・皇族・皇室の表象に関する調査研究を進め、その成果を論文や学会発表等によって社会還元することも果たした。更なる研究成果の発信を、本研究と連続性を持った科研費(基盤研究(C)/21K00149)によるプロジェクトでおこなう予定である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project was to conduct fundamental research for the utilization of the remaining "Imperial Household Films" in Japan and abroad, centering on a survey of their holdings. During the four years of activity (including the extension period), we conducted research at several film archives in Europe, as well as in Japan, and achieved a certain degree of success. New research plan, based on the results of this study, has been adopted as Grant-in-Aid for Scientific Research project in FY2021. This new project, while maintaining continuity with the results of this study, also incorporates new perspectives, such as film censorship.

研究分野：映画学、視覚文化、メディア、表象

キーワード：映画 映像文化 フィルム アーカイブ メディア 表象 天皇・皇族・皇室 天皇制

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

昭和天皇が皇太子だった1921(大正10)年3月から9月にかけてヨーロッパを外遊することになった際、その動向を記録した複数の映画が製作された。以下、この映画のことを、“皇太子渡欧映画”と呼称する。幾つかの先行研究において、この“皇太子渡欧映画”が、皇太子の動く姿を初めて正式に記録した映画(当時の呼称は活動写真)であること、また皇室報道の歴史を考えるうえで極めて画期的であったことが指摘されている。しかしながら、現存フィルムに即して詳細に分析した研究は十分には為されてはいなかった。こうした状況をふまえ本研究は、皇室の近代化(現代化)をもたらす象徴的な出来事であったと言っても過言ではない“皇太子渡欧映画”および関連する映画フィルムや文献資料の調査研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究の最終目的は、大正期から昭和期にかけて映画メディアが天皇・皇室の近代化に果たした役割について検証するための基盤を構築することであった。そのために、国内外のアーカイブ施設等に点在している「皇室映画」の調査研究を実施した。なかでも、国立映画アーカイブは、昭和天皇(当時は皇太子)が1921年にヨーロッパを旅行した際に撮影された映画フィルムや、昭和天皇の御大礼を記録した映画フィルムを複数所蔵しており、本研究を開始した時点では十分な調査は成されてはいなかったため、これらの調査を軸としつつ、歴史学の専門家と情報を共有し、調査研究を進めることによって、天皇・皇族・皇室の近代化(現代化)に関する研究の促進を目指した。

3. 研究の方法

国内外のアーカイブ施設所蔵の「皇室映画」に関わるフィルムおよび関連資料の調査を軸としながら、それらの活用に向けた基礎研究を進めた。研究期間のうち後半は新型コロナウイルスの感染症拡大に伴って、出張・現地調査の中止を余儀なくされたため、インターネットを活用した調査も重点的におこないながら、研究期間の前半に主として収集した映像資料および文献資料の考察を進めた。コロナ禍の社会情勢に鑑み、感染リスクを回避した形態としてオンラインによる研究会を開催し、その特性を活かして、海外在住者を含めた遠隔地の研究者との意見交換を積極的におこなうことで本研究の議論を深め、その研究成果を学術論文の執筆や学会発表等によって発信した。

4. 研究成果

本研究は、新型コロナウイルスの感染症拡大に伴う計画の一部中止や延期を余儀なくされつつも、(延長期間も含めて)4年間の活動の中で、国内のアーカイブのほか、ヨーロッパの幾つかのフィルムアーカイブでの調査を実施し、今後の研究の発展に繋がる成果をおさめた。現存するフィルムや関連する文献に即した調査研究も進め、2021年にはオンライン研究会を開催したほか、研究成果の一部は、学術論文の執筆や学会発表をおこなうことによる社会還元を果たした。最終年度の成果の代表的なものとしては、紙屋牧子が、昭和天皇の御大礼を撮影した映画に関して考察したテーマ「昭和天皇「代替わり」儀式の映画における視覚表象」を美学会第72回大会で口頭発表し(2021年10月)森暢平は、天皇制とメディア報道に関して考察した書籍『天皇

家の恋愛』(中央公論社、2022年)を刊行した。また、高木博志は、天皇制と部落問題について考察した共著『近代の部落問題』(解放出版社、2022年)を刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 9
2. 論文標題 フィルムアーカイブの諸問題 第108回：「小さきものたち」を拾い集めること 映画図書館員会議2019に参加して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NFAJニュースレター	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 179
2. 論文標題 草創期の朝日会館における映画上映	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪春秋	6. 最初と最後の頁 80～81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 116
2. 論文標題 映画『祇園祭』を伊藤大輔の作家性から再考する 「傾向映画」との接続と非接続	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文學報	6. 最初と最後の頁 183-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/262806	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 52
2. 論文標題 マキノ雅弘監督『次郎長三国志 第九部 荒神山』（1954年）の異様さについて 「冤罪」の表象と松川事件との共振性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武蔵野美術大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 -
2. 論文標題 『孫悟空』（1940年）における全体主義とエノケンの身体性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 栗原重一とその時代 エノケン喜劇をささえた音楽家（早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 公募研究成果報告）	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 27
2. 論文標題 コドモ 映画としての『二つの玉』（1926年）をめぐって 大正・昭和初期における朝日新聞社の映画事業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 EAA Booklet	6. 最初と最後の頁 51-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高木博志	4. 巻 -
2. 論文標題 The Restoration of the Ancient Capitals of Nara and Kyoto and International Cultural Legitimacy in Meiji Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Meiji Restoration: Japan as a Global Nation	6. 最初と最後の頁 249 ~ 265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/9781108775762.013	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 6
2. 論文標題 フィルムアーカイブの諸問題 第105回 世界最古の映画会社ゴーマン、そしてパテにおける映画保存	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NFAJニューズレター	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 51巻13号
2. 論文標題 制御から零れ落ちる過剰さ：京マチ子の身体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 82-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 100
2. 論文標題 最初期の「皇室映画」に関する考察：隠される/晒される「身体」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 映像学	6. 最初と最後の頁 32-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18917/eizogaku.100.0_32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森暢平	4. 巻 102巻2号
2. 論文標題 近代皇室における「乳人」の選定家庭と変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 34-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木博志	4. 巻 803号
2. 論文標題 明治維新50年、60年の記憶と顕彰 近代の主役は普通の市民(明治150年を見つめ直す)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新聞研究	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 朝日会館と「映画教育」 “少年映画” 『二つの玉』（1926）をめぐって
3. 学会等名 シンポジウム 朝日会館と コドモ 文化（1926-1935） メディア、家庭、社会教育（第六回ジャーナリズム研究会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 昭和天皇「代替わり」儀式の映画における視覚表象
3. 学会等名 美学会第72回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 映画宣伝資料から読み解く関東大震災前後の映画興行界
3. 学会等名 映画宣伝資料にみる無声映画興行の諸相
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 Representations of American Army Camp in Post-war Japanese Movies: Men and Women Make “Peace” (講和) in Yassamossa and Akasenkichi
3. 学会等名 Forum on Screen Media in Cold War Asia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 『孫悟空』(1940年)と全体主義
3. 学会等名 演劇映像学連携研究拠点 公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」主催 公開研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 「大正・昭和初期映画館チラシ」から見えてくるもの
3. 学会等名 演劇映像学連携研究拠点 公募研究「映画宣伝資料を活用した無声映画興行に関する基礎研究」主催 公開研究会「演劇博物館所蔵「大正・昭和初期映画館チラシ」が埋める無声映画史の隙間」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 草創期における映画と皇室との関わり：塚田嘉信が遺したものから考える
3. 学会等名 科研費研究課題「塚田嘉信コレクションを起点に初期映画史を読みなおす」第一回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 「御大典映画」(1928年)製作をめぐる背景を考察する
3. 学会等名 科研費研究課題「大正期から昭和期における「皇室映画」の研究活用に向けた基礎調査」Zoom研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 映像遺産の保存と活用 - 昭和天皇の欧州旅行 (1921年)
3. 学会等名 相模原市教育委員会・国立映画アーカイブ主催 研究機関等公開講座「国立映画アーカイブコース」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 Japanese Princes Go to Europe: Media Strategy of Imperial Household from 1910s to 1920s
3. 学会等名 International Workshop “Media History of Japan in the Twentieth Century: Mass Media and Monarchy in Comparison and Beyond (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森暢平
2. 発表標題 Turning the Imperial Household into a Modern Family
3. 学会等名 International Workshop “Media History of Japan in the Twentieth Century: Mass Media and Monarchy in Comparison and Beyond (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森暢平
2. 発表標題 上映会「皇太子裕仁・欧州訪問映画」から考えるメディアと皇室」(講演付)
3. 学会等名 象徴天皇制研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 大阪朝日新聞懸賞映画『二つの玉』（1926年）をめぐって
3. 学会等名 科学研究費研究課題「朝日会館」の子供を対象とした文化活動の検証及び記録化と、社会教育への影響研究」（基盤研究C/代表者；山本美紀）主催研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 天皇・皇族の身体の可視化/不可視化について：大正期から昭和初期の映画を手がかりに
3. 学会等名 第69回美学学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 戦前・戦時期の大阪朝日会館の映画上映について
3. 学会等名 科学研究費研究課題「朝日会館」を巡る文化活動の記録化とその歴史的影響の分析」（基盤研究C/代表者：山上揚平）主催シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 エノケンと戦前期モダニズム
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」（研究代表者：中野正昭）主催公開研究会「エノケンの楽団と舞台・映画・レコード」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 Christian Representation during the Occupation Era with a focus on Gate of Flesh
3. 学会等名 Kinema Club XVIII
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森暢平
2. 発表標題 乳人と地域社会
3. 学会等名 象徴天皇制研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森暢平
2. 発表標題 メディア業界出身の政治家 - その歴史社会的検討
3. 学会等名 日本マスコミュニケーション学会研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高木博志
2. 発表標題 近現代史のなかの映画『祇園祭』
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所「オーラル・ヒストリー・アーカイヴスによる戦後日本映画史の再構築」主催の「映画『祇園祭』と京都」シンポジウム
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 朝治武（編）、黒川みどり（編）、内田龍史（編）、高木博志、ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 530
3. 書名 近代の部落問題（論文標題：「近代天皇制と洞村移転」）	

1. 著者名 森 暢平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 296
3. 書名 天皇家の恋愛	

1. 著者名 美学会（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 768
3. 書名 美学の事典（項目：「フィルムアーカイブ なぜ残すことが重要なのか」「映画と検閲・自主規制 映画はいかにして抑圧と闘ってきたのか」）	

1. 著者名 志村三代子（編）、角尾宣信（編）、四方田犬彦、河野真理江、具珉炯、紙屋牧子、鳥羽耕史、坂尻昌平、久保豊、長門洋平、川崎公平、深田晃司、小森はるか、金川晋吾、斉藤有吾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 554
3. 書名 『渋谷実 巨匠に渋谷実して異端』（論文標題：『やっさもっさ』と「講和」 ポスト占領期における男性）	

1. 著者名 高木博志(編)、John Breen(編)、丸山宏(編)、谷川穰	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Renaissance Book	5. 総ページ数 286
3. 書名 Kyoto's Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan	

1. 著者名 谷川健司(編)、高木博志、西村大志、久保豊、伊藤弘了、高階絵里加、小川順子、須川まり、小川佐和子、長門洋平、北浦寛之、花田史彦、高木博志、木村智哉、板倉史明、京樂真帆子、菊地暁、太田米男	4. 発行年 2020年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 424
3. 書名 映画産業史の転換点(論文標題: 近現代史のなかの映画『祇園祭』 もう一つの明治百年)	

1. 著者名 塚田幸光(編)、清水知子、小原文衛、吉村いづみ、山本佳樹、羽鳥隆英、キンバリー・イクラベルジー、久保豊、紙屋牧子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 332
3. 書名 映画とジェンダー/エスニシティ(論文標題: 占領期の田中絹代と小津安二郎 なぜ女は「制裁」されるのか)	

1. 著者名 森暢平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 390
3. 書名 近代皇室の社会史 側室・育児・恋愛	

1. 著者名 高木博志(編)、岩城卓二(編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 194
3. 書名 博物館と文化財の危機	

1. 著者名 森暢平、河西秀哉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文堂	5. 総ページ数 222
3. 書名 皇后四代の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森 暢平 (MORI Yohei) (20407612)	成城大学・文芸学部・教授 (32630)	
研究分担者	高木 博志 (TAKAGI Hiroshi) (30202146)	京都大学・人文科学研究所・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------